

## おわりに

私の教員としてのキャリアは、今年度で37年になりました。東京都・秋田県の養護学校教員18年、秋田県教育委員会指導主事・管理主事5年、大学教員14年……。 「いつの間にこんなに時間が経ったのか？」と驚くほど、あっという間だったように感じます。

これまでの長いキャリアを「あっという間」ととらえられるのは、教師という仕事が「私の天職」と思えるからにほかなりません。仕事上の失敗や悩みは数多くありましたが、子ども、保護者、同僚、学生等々、さまざまなかかわりが私を人として、教師として育て、幸せをたっぷりもたらしてくれたのだと感謝しています。その感謝の気持ちを少しでも学校現場に返したいと思い、私は今、研修・講演の講師として、全国各地の先生方の前に立たせていただいています。

講演等を行う際、私が留意しているのは、「経験をカウンセリングや心理学の理論によって整理し、自分の言葉として伝える」ということです。この姿勢は、恩師である國分康孝先生の「I thinkの前には理論が必要」という言葉に支えられています。私の「I think」にはまだ「ブレ」があります。それでも講演等のあとに届く先生方の

声により、「ブレ」が少しずつ減ってきているように感じています。加えて、それらの声が、私の背中を「追い風」のように押しつけて下さっているからこそ、私は今、元気に仕事ができているのだとあらためて感じ、感謝の気持ちで満ちてきます。

\*

追い風ということでは、10年間一度も吹きやむことなく、私の背中を押し続けた風があります。

それは、毎年研修会を行わせていただいている長崎県佐世保市の先生方の声です。佐世保市教育センター主催の夏期研修会に毎年参加して下さる多くの先生方の声に、私はいつもどれくらい元気や勇気、自信を与えていただいているかわかりません。特に、ちょうど10年の節目となった2019年8月7日の講演後に届いた声は、私にとって、ただの追い風ではなく野分のような強さをもった「風」となりました。声のいくつかを紹介します。

毎年、9月からの授業が楽しみになるエネルギーをいただいています／理論や技法うんぬんよりも先生のお話は誰もが受け入れられる魅力があります／10年続けてお話をうかがっています。先生の言葉には納得・説得力があります／毎年毎年楽しみにしています。ぜひ、また来年もお待ちしています 等々

この言葉をもらった当日の講演タイトルは、「特別支援教育の視点に立った学級経営～7つの理論と7つの技法～」。特別支援教育、生徒指導、教育相談という3領域を専門とする私の研究・実践の「現在地」を、先生方に伝えた講演でした。前述の声を受け、私の中

には、「10年も話を聴いてくださっている先生方が、『ぜひ、また!』  
と言ってください。そうであるならば、私は自分の研究・実践に自信  
をもちたい。もっと多くの先生方に私の考えを伝えたい」という  
思いが湧き上がりました。その思いが冷めないうちに、通常学級に  
おける特別支援教育について、私の「現在地」を再考し、コンセプ  
トをまとめ上げたものが本書の骨子になりました。

『月刊学校教育相談』2019年8月号「発達障害のある子を学級全体  
で理解するとき」への原稿執筆における、編集担当の高村瞳子様と  
のご縁が本書の発刊につながったこと……、心より感謝申し上げます。

\*

これまでの、特別支援教育に関する私の単著としては、『教室で  
できる特別支援教育 子どもに学んだ『王道』ステップ ワン・ツー・  
スリー』(文溪堂、2014年)があります。同書の発刊から7年を経て、  
私の中でより太くなったり、新たに見出したりした知見を読者のみ  
なさんに提示したものが本書です。

古くからの織物の街、かつて「西の西陣、東の桐生」とうたわれ  
た群馬県桐生市に生まれ育った私が、子どもの頃からずっと見続け  
てきた綺麗な織物……。学級の中で、教師と子どもを結ぶ「縦糸」、  
子ども同士を結ぶ「横糸」によって学級という「機」が織り上がり、  
日本中が綺麗な「機」でいっぱいになる……。そんな光景を楽しみ  
に心に描きながら本書を綴りました。

みなさん、ぜひ一緒に「機」を織り上げませんか？ 私の「全力」  
で子どもたちを、先生方を応援したい！ 今、私の心は、「少しでも  
学校現場のお役に立ちたい！」という思いであふれています。

\*

最後に。妻の晃子、母の博子、義父母の昭二郎・ツマ、息子の泰賀、娘の翡翠、孫の新……。単身赴任の私にはいつも家族の声が心の中で響いています。「健康に気をつけて。頑張って」と。

みんな、ありがとう。

2020年12月 50代最後の師走を迎えて

曾山 和彦